

## 総合科学部

### 「徳島における読書コミュニケーション育成とネットワーク作りプロジェクト」事業

#### 事業のポイント

- 徳島大学総合科学部地域交流プロジェクトの採択プロジェクト
- 大学を中心とした地域における読書啓発活動

#### 事業代表者・連絡先

依岡 隆児（総合科学部・教授）  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 総合科学部  
tel: 088-656-7143  
E-mail: yorioka.ryuji@tokushima-u.ac.jp

#### 事業の概要

##### 1. 事業の目的

徳島において学生や社会人など異なる世代の人々が集う場を作り、読書を通して地域文化を発展させることを目指し、読書交流の振興と活性化によって地域社会と大学との連携をより緊密にすることを目的とする。

徳島大学総合科学部の平成30年度地域交流プロジェクトとして、総合科学部の教員と附属図書館員とが中心になって学生・社会人の協力のもと計画・実施するものである。

##### 2. 事業の取組状況

読書好きの徳島大学の学生・教職員と読書活動に携わる社会人を集め、読書会や読書イベントを学内外で開催することで、読書のコミュニケーションを推進する。具体的には、昨年度の同地域交流プロジェクトだった「徳島における読書交流支援プロジェクト」を継承し、推薦図書ブックリストを作成する。

また、当初から協力依頼されてきた徳島県の高中生ビブリオバトル普及と県大会運営に協力するとともに、本学の学生サークルである阿波ビブリオバトルサポーターの活動、特にビブリオバトル首都決戦地区予選大会の運営を支援している。さらに徳島の「まちライブラリー」にも助力し、そのネットワーク化を進めている。

こうした成果は、年度末における同活動の成果報告会開

催と、今回のプロジェクトで作成するブックリストを県下  
の高校・図書館に配布することで、周知に努める。

本プロジェクトの活動は、徳島大学附属図書館との密接な連携のもと、徳島県下の図書館、県立文学書道館、県教育委員会との関係を一層強化して、活動の横のつながりを構築していくものである。

##### 3. 事業実施による成果と今後の展開

本プロジェクトの前身である「徳島における読書交流支援プロジェクト」は、読書啓発活動によって徳島県下の関連機関との間に有意義な交流を生みだしてきた。本プロジェクトはこうした流れを一過性のものにすることなく、引き続き文化関連機関をつないでいく役割を担い、地域社会に文化の気風を培う一助となっている。大学のみならず中学・高校におけるビブリオバトル支援活動、ブックリスト作成、そして読書文化懇談会の開催など、本プロジェクトの諸活動は、地域の中の各関連団体との協働を可能にし、それらの間に相互理解を可能にしているものと考えられる。

また、学生が社会人と共同作業することで刺激を受け社会性を身につけるとともに、社会人の方もこうしたプロジェクトに関与することで大学を身近に感じるようになるが故に、大学を地域社会により一層開かれたものにすることが期待される。今後もこの活動を継続し、地域の読書文化育成に努めていく。

## 医学部

### 徳島大学医学部寄附講座事業

#### 事業のポイント

- 医師スタッフが地域医療支援として連携病院での診療活動を実施するとともに、地域医療の向上を目指した現地での臨床研究及び地域医療実習の実践など医学科生の地域医療貢献への関心を高める教育活動に取り組んだ。

#### 事業代表者・連絡先

谷 憲治（大学院医歯薬学研究部医学域・特任教授）  
〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15  
tel: 088-633-9614 fax: 088-633-9687  
e-mail: taniken@tokushima-u.ac.jp

#### 事業の概要

##### 1. 事業の目的

徳島県等の自治体や公的医療機関と連携した寄附講座を設置することによって、医師不足地域での診療支援体制の構築、地域医療の向上を目指した研究活動及び地域医療への関心を高める医学部教育に取り組む。

##### 2. 事業の取組状況

###### ① 地域医療支援・研究活動

それぞれの領域の研究活動とともに地域医療への貢献に取り組んだ。このうち、総合診療医学分野は徳島県立海部病院、地域総合医療学分野及び地域医療人材育成分野は公立学校共済組合四国中央病院、糖尿病・代謝疾患治療医学分野は阿南共栄病院、そして地域消化器・総合内科学分野は高松市民病院を拠点とし、それぞれの病院の診療活動に従事しながら地域医療の向上に向けた研究活動に従事した。

###### ② 地域医療教育

総合診療医学分野、地域総合医療学分野及び糖尿病・代謝疾患治療医学分野は、医学科生全員を対象とした臨床実習クリニカル・クラークシップにおける1週間の地域医療実習を実践した（写真1）。医学科5年生（一部6年生）の1

班約10名が10班に分かれ、徳島県南の海部郡を中心とした医療機関（徳島県南コース）と四国中央病院を中心とした医療機関（四国中央コース）に分かれて、様々な医療・介護・福祉を体験した。

さらに、地域医療に関心の高い医学科生に対しては、選択実習として、徳島県内を中心とした様々な医療機関で最長12週間の実習を実施した（平成30年度15名が選択）。また、医学科3年生の医学研究実習も受け入れ（平成30年度は5名が配属）、9か月間地域医療をテーマにした研究指導を行った。

###### ③ 地域医療連携

大学の寄附講座医師による診療支援及び教育活動によって大学と地域医療機関との連携が深まった。地域医療に関心の高い医学科生とその指導にあたる地域医療機関の医師を対象とした医学科生教育のレベルアップを図る研究会を定期的に年2回開催することで相互の連携も深まった。

##### 3. 事業実施による成果と今後の展開

徳島県を含む四国では医師の地域偏在による医師不足が深刻である。そこで、徳島大学は寄附講座を設置して診療支援体制を構築するとともに、地域医療に関する研究や教育にも関わっており、地域で勤務する医師の増加が期待できた。



（写真1）住民と医学生 -地域医療実習にて-

## 歯学部 阿波なかつむぎプロジェクト事業

### 事業のポイント

- 中山間地域におけるICT活用によるフレイル・オーラルフレイル予防のためのベストプラクティス確立・普及に関する調査研究事業(厚生労働省平成30年度老人保健健康増進等事業)の一環として、徳島大学、病院および在宅支援機関が協働して実施した。
- 昨年度に開発し、那賀町に導入したクラウド型ICTシステム(要援護者等情報共有システム)の改良と拡充(牟岐町、木屋平地区への導入)を行った。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的・経緯

フレイル・オーラルフレイル予防の視点から、地域住民の口腔と食(栄養)に関する個別・地域課題の情報を系統的に登録する新規機能を開発し稼働中のICTシステムに装備することで、医療職や介護/福祉職間の情報連携強化を目指したICT共有体制を構築する。そして、この体制と人的運用の両面から住民の課題解決に資する社会資源の有効利用と関係職種間の最適な連携を実現するベストプラクティスを確立し、システムとともに普及することを目的とする。

#### 2. 事業の取組状況

##### 1) 新規ICT機能「Awa-i-コンサルSNS」の開発

迅速な情報発信が可能なタイムライン機能を強化すべく、定型フォームによる情報登録プログラム(コンテンツ)を新たに開発し、稼働中のICTシステムに搭載した(Awa-i-コンサルSNS、図1)。



(図1) Awa-i-コンサルSNSのコンセプト

コンテンツは、  
①ADL/IADL、②物忘れ評価(HDS-R)、  
③食事/口腔観察、  
④薬剤管理(図2)、  
⑤体表面観察、⑥歯科困りごと(歯科受診依頼)から成る。

##### 2) 海部郡内の医療職・介護/福祉職に対する口腔ケア支援技術研修の実施

平成30年9月19日および10月17日の2回にわたり、徳島県立海部病院において28名の参加者に対して実施した(図3)。

##### 3) 健口体操プログラムの効果検証研究

那賀町内の高齢者約40名の同意を得て、約5ヶ月間の健口体操の継続実施(図4)と口腔/食に関する講話の聴講(図5)

### 事業代表者・連絡先

尾崎 和美 (徳島大学大学院医歯薬学研究所歯学域  
口腔保健支援学分野 教授)  
〒770-8504 徳島市蔵本町3-18-15  
tel: 088-633-9309  
e-mail: ozaki@tokushima-u.ac.jp



(図3) 研修の様子

による口腔リテラシーの向上と口腔衛生ならびに口腔機能の維持・向上に対する効果を検証するための臨床研究(徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会[承認番号No.3138])を実施した。



(図4) 健口体操の実施



(図5) 講話の聴講

#### 3. 成果と今後の展開

##### 1) 成果

- (1) 阿波なかつむぎプロジェクトフォーラム開催  
平成31年1月27日(日)に牟岐町海の総合文化センターにて事業担当者5名による講演を実施した。
- (2) 健口体操による高齢者の口腔リテラシー向上
- (3) 地域ケア会議におけるシステムの活用促進

##### 2) 今後の展開

- (1) システムの運用拡充と活用促進目的の研修活動
- (2) 口腔ケア支援人材の継続的育成
- (3) 互助によるオーラル・フレイル予防の普及啓発

## 薬学部 薬学部卒業教育公開講座事業

### 事業のポイント

- 薬剤師をはじめとする薬学関連分野に従事する社会人及び本学教員・学生に学びの場を提供する目的で、平成9年に第1回薬学部卒業教育公開講座が始まり、その後年2~3回開催し、平成30年度で47回を数えている。
- 地域の薬剤師会と共催事業として実施。また、薬学部同窓会組織からの後援を受けている。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

高齢化社会の到来、医療技術の高度化や医薬分業の進展などに伴い、医療現場における医薬品の適正で安全な使用を確保するために薬剤師の役割が益々重要となっており、厚生労働省においても「患者のための薬局ビジョン」が策定され、薬剤師の職能に大きな期待が寄せられている。

一方、医薬や医療に関する学問・技術の進歩は目覚ましく、薬剤師をはじめとする薬学関連分野に従事する社会人は、生涯にわたり学習・研修することにより資質向上を図ることが求められている。このような社会的要請に応え、生涯学習の場を広く社会人に提供する目的で、本学部主催として卒業教育公開講座を開講した。これにより大学が社会人の再教育については医療の進展に寄与することができ、さらに本講座を通して提起される意見、問題点を学部及び大学院の薬学教育に役立たせることができると期待される。

#### 2. 事業の取組状況

薬学部卒業教育公開講座の運営について、事業の取りまとめを行う実施委員長は本学部の薬剤師教育・社会貢献事業を担う臨床薬学実務教育学分野の長が担い、事業の実施に当たる実行委員長は従来通り薬学部の各研究室が持ち回りで担当する。実施委員長、実行委員長が中心となって卒業教育公開講座実施委員会を開き、社会人薬剤師の再教育と生涯学習という事業の目的に合致した講師の選出について協議する。

平成9年に第1回卒業教育公開講座が開かれ、その後年2~3回の割合で開催が継続され、今年度までののべ参加人数

### 事業代表者・連絡先

阿部 真治 (大学院医歯薬学研究所薬学域・准教授)  
〒770-8505 徳島市庄町1-78-1  
tel: 088-633-7562 fax: 088-633-7825  
e-mail: ashinji@tokushima-u.ac.jp

数は9,915名に達している。本事業では講演会の他、平成22年度からは、病院・薬局で長期(5ヶ月)の実務実習を受けた学生がその成果を発表する「薬学5年生薬局・病院実務実習成果発表会」も同時に開催することで、地域の病院・薬局との結びつきを深める取組も進めている。

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

平成30年度は6月3日に「薬剤師主導による臨床研究のすすめ」(参加者115名)、また11月18日には「基礎薬学と臨床薬学の融合を目指して」(参加者181名)というテーマで開催した。本公開講座は研修単位としても登録されており、平成28年度から始まった「かかりつけ薬剤師」制度における「認定薬剤師」資格取得の一助となればと考えている。



薬学部長井記念ホールでの講演会の様子(平成30年11月18日)

## 薬学部 | TPN(徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク)事業

### 事業のポイント

■ 医療関係者を講師とした参加型研修により、地域薬剤師の生涯学習及び薬剤師と薬学生の交流の場を提供。

### 事業代表者・連絡先

阿部 真治 (大学院医歯薬学部薬学域・准教授)  
〒770-8505 徳島市庄町1-78-1  
tel: 088-633-7562 fax: 088-633-7825  
e-mail: ashinji@tokushima-u.ac.jp

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

臨床で活躍中の医療関係者(医師、薬剤師、看護師等)を講師として招き、地域薬剤師との身近な勉強会並びに長期実務実習を行う市中の病院・薬局との情報交換の場として参加型研修会を2005年より行っている。

地域薬剤師への生涯学習の場として、先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学部学生にも自主的な参加を呼びかけ、徳島を拠点とした薬剤師・薬学生の交流の場として職能教育に役立っている。また学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上及び生涯学習の重要性の認識につながる教育効果も得られている。

#### 2. 事業の取組状況

30年度に行われたTPNは1回、「子宮頸癌の予防と治療～HPVワクチンから新規治療薬の開発まで」、「生活習慣病とトランス脂肪酸に関する研究～病院薬剤師の視点から～」という演題で、参加者は学生82名、薬剤師20名、全体で102名であった。今回は東京大学医学部附属病院の医師、薬剤師に演者としてお越しいただき、病院における最新の治療法と、その確立を目指した臨床研究についてご紹介いただいた。本事業を通して、最先端の臨床現場における治療の考え方や臨床研究を行うにあたっての理論展開について幅広い話題を提供することができた。



東京大学医学部附属病院の薬剤師による講演風景

#### 3. 事業実施による成果と今後の展望

本事業により、多くの学生や地域薬剤師が最先端の医療現場の実情を知ることができ、自らのキャリアパスや日常業務について考える機会になった。今後も臨床と基礎との結びつきという観点から話題を提供していきたい。

## 薬学部 | 薬学部附属薬用植物園一般公開事業

### 事業のポイント

■ 薬用植物園一般公開において、薬用植物・ハーブに関する説明やテーマ展示などにより、一般市民への薬用植物の啓蒙を図る。

### 事業代表者・連絡先

柏田 良樹 (薬学部附属薬用植物園・園長、大学院医歯薬学部薬学域・教授)  
〒770-8505 徳島市庄町1-78-1  
tel: 088-633-7276 fax: 088-633-9501  
e-mail: kasiwada@tokushima-u.ac.jp

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

徳島大学薬学部薬用植物園では、一般市民への薬用植物の啓蒙を図ることを目的に、平成9年より薬用植物園一般開放を実施している。平成18年からは10月頃に1週間、来園者を制限せずに園内の栽培植物を自由に見学していただいている。また、来園された方に生薬・薬用植物に興味をもっていただけるよう種々のテーマ展示を合わせて行っている。

#### 2. 事業の取組状況

10月15日(月)～19日(金)の5日間一般開放を実施したところ、900名を越える来園者があった。

本年のテーマ展示としては、研修室において一閑張りや薬草画の作品を展示するとともに、「アロマオイルで作る炭酸入浴剤作製の実演・体験」を行った。薬学部生薬学分野の学生がアロマオイルの効果などを交えながらの説明と炭酸入浴剤作製の実演を行い、参加者に作製体験を行ってもらったので、一般開放の来園者に体験していただく初めての試みであった。テレビのニュースで炭酸入浴剤作製の場面が放送されたことから、本体験に興味をもって来園して下さった方も多く、作製を楽しんでいただけたようで、非常に好評であった。

また、園内で栽培されている約800種のうち、園内では種々の薬用植物や、絶滅危惧水生植物のオニバス、味噌の味を良くするミソナオシ等、希少な植物や、赤い果実が花のように見えるアケビバナナなどを、来園者は興味深く散策して観察していた。



アロマオイルで作る炭酸入浴剤を作成する来園者



温室の薬用植物を観察する来園者

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

そのヘルスケアへの期待などから一般の方が薬用植物やいわゆるハーブなどに興味を持っている。薬用植物園の一般開放が、一般市民の方にとって薬用植物にふれる良い機会になるとともに、薬用植物の正しい理解につながることを期待している。

## 理工学部 科学体験フェスティバル in 徳島

### 事業のポイント

■ 徳島大学、県内小学校・中学校・高等学校及び地元企業等がタイアップし、県内の子どもたちが実際に科学実験に参加することを通じて、科学の楽しさや不思議さを体験できる魅力ある科学イベント。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

徳島大学、県内小学校・中学校・高等学校及び地元企業等がタイアップし、県内の子どもたちが実際に科学実験に参加することを通じて、科学の楽しさや不思議さを体験できる魅力ある科学イベントを開催し、次世代を担う青少年の科学する心を育成するとともに、科学に対する関心を高め、ひいては地域社会の科学技術の振興に貢献することを目的としています。

#### 2. 事業の取組状況

平成9年度から工学部の主催により始まり、毎年夏休み期間中の2日間、徳島大学常三島キャンパスで開催してきた本イベントは、平成28年度から理工学部に承継し、第22回を開催するに至りました。(写真1) その間、来場者数は年々増加し、第22回の来場者数は9,000人(入場無料)を数えるまでの徳島県における一大イベントに成長しています。出展機関は本学以外にも教育機関9機関、企業7社、その他7機関を数え、出展数は46ブースです。(第22回実績)(写真2・3)



(写真1) 第22回科学体験フェスティバル in 徳島 開会前

### 事業代表者・連絡先

「科学体験フェスティバルin徳島」実行委員会事務局  
(徳島大学理工学部内)  
〒770-8506 徳島市南常三島町2-1  
tel: 088-656-7640 fax: 088-656-7328  
e-mail: st\_senmon@tokushima-u.ac.jp

### 3. 事業実施による成果と今後の展開

20年以上継続して開催してきた成果として、地域社会に浸透し、参加者アンケートでは「毎年楽しみにしている」とのお言葉もいただいています。参加した子どもたちが成長し、本学に学生として入学されていることも報告されており、未来の徳大生に、本学を知り、親しみを持ってもらう意味でも大切なイベントとなっています。

「科学体験フェスティバルin徳島」特設WEBページ  
URL : <http://www2.st.tokushima-u.ac.jp/sci-fes/>



(写真2) (ブース)ロボットワールド9



(写真3) (ブース)光で動くミニ4駆

## 生物資源産業学部 スギ心材の耐久性を保持した乾燥技術の開発事業

### 事業のポイント

■ シロアリや木材腐朽菌は、住宅の木材柱や板を腐朽し、力学的強度を減少させる。腐朽を受けた住宅は、地震、津波により大きな被害を受ける。一方、山林の樹木は、適切な乾燥が施されないと、柱や板として使用できない。そこで、これら生物に耐久性の高い木材製品を製造するため、従来の常識を覆す人工乾燥条件を開発する。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

1990年代前半位まで、スギ高樹齢木の丸太(元玉)は和室の割柱や敷居・長押等に広く販売されていた。しかし住宅の洋風化等により、これらの材の需要が減少した。現在、戦後植栽され成熟・大径化したスギ元玉丸太の価格は低迷し、林業経営悪化の要因の一つとなっている。この状況を打開するためには、耐久性に優れた豊富な心材を基に、大径材心材部に新たな市場価値を付与することが解決法である。

その為、スギ大径材の耐久性を保持した乾燥技術の開発が、技術的課題である。スギの心材は乾燥しにくく、自然界で乾燥するまで放置する天然乾燥は人為的な条件下乾燥させる人工乾燥に比べ時間がかかり寸法安定性が劣る。不適切な高温での人工乾燥では、木材内部に割れが生じやすく、木材腐朽菌への耐久性が、天然乾燥より悪くなる報告もある。

本事業は、スギ大径材の耐久性を保持し、迅速な、乾燥技術を開発することを目的とする。

#### 2. 事業の取組状況

現行の人工乾燥の常識を覆す、煮沸を用いない、新規な人工乾燥条件を開発すべく、徳島大学(研究代表機関)、徳島県、徳島文理大学、九州大学、京都大学は、「スギ大径材需要開発研究会」コンソーシアムを形成し、徳島木の家づくり協会の協力の下、平成28年度国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターより、助成を受け、「スギ

### 事業代表者・連絡先

徳島大学生物資源産業学部  
〒770-8513 徳島市南常三島町2-1  
tel: 088-656-7183  
e-mail: thattori@tokushima-u.ac.jp

大径材の耐久性を保持した乾燥技術の開発」に向け共同研究した。

研究内容は、1. 耐久性を保持する適正乾燥技術の確立(徳島県、九州大学担当)、2. 耐久性に寄与する成分と物性の分析(徳島文理大学、京都大学、徳島大学、徳島県担当)である。(図1)

成果を、第68回日本木材学会大会、第2回徳島フォレストサイエンスシンポジウムにて、発表した。

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

乾球温度90℃、乾湿球温度差が20℃の乾燥条件が、天然乾燥材と同等の耐腐朽・耐蟻性能をスギ板材に与える、実用性に近い乾燥条件であることが分かった。(特願2018-037680。)

本条件は乾燥初めに煮沸を用いない迅速なスギ板材の乾燥条件として有効性が高いと考えられる。

引き続き、耐久性を保持したスギ心材「柱材」の人工乾燥条件の開発に取り組んでいる。



(図1) 本事業の共同研究の有様

## 病院 徳島県地域医療支援センター事業

### 事業のポイント

■ 地域医療を担う医師のキャリア形成支援、地域医療に関する調査・分析と医師不足状況等への対応、医師確保対策の推進、地域医療関係者との連携。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

地域医療を担う医師の「キャリア形成支援」や「医師の配置調整」など、本県の医師確保対策を総合的に行うため、県が徳島大学病院に委託し、県内の医療機関、医師会、市町村等の関係機関との連携による「徳島県地域医療支援センター」を平成23年11月に設置し、本県における地域医療の安定的な確保を図っている。

#### 2. 事業の取組状況

##### ①医師のキャリア形成支援事業

研修プログラム、教育カンファレンス、教育回診、技能講習会、講演会の企画、立案、また講演会参加の助成事業を行っている。

- ・総合診療の指導力育成事業（徳島 GM ラウンド）  
第15回（平成30年10月20日、徳島県立中央病院）  
第16回（平成31年2月16日、徳島大学病院）
- ・研修会等参加助成・支援 24件
- ・研修会等開催助成・支援 25件
- ・第4回地域枠医師のワークショップ  
（平成30年11月25日）（写真1、2）



（写真1）グループワーク

（写真2）GW発表

- ・地域枠学生及び医師とのキャリア面談回数 90人
- ②地域医療に関する調査、分析と医師不足状況等への対応  
徳島を拠点にキャリア形成を行う医師のデータベースシステムを構築し、医師の配置調整等を協議するための根拠資料として役立てている。

### 事業代表者・連絡先

永廣 信治（病院・病院長／徳島県地域医療支援センター長）  
〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2-50-1  
tel: 088-633-9544 fax: 088-633-9543  
e-mail: t-cms@tokushima-u.ac.jp

#### ③医師確保対策の推進

総合窓口の運営とホームページや研修プログラム冊子、徳島県の地域医療の現状をお知らせするための広報紙「トクドク（写真3）」、徳島県内専門研修プログラムパンフレット“STEP UP（写真4）”の発行等により、随時最新の情報を発信するとともに、医学生、医師とのキャリア面談を実施している。



（写真3）トクドク

（写真4）STEP UP

#### ④地域医療関係者との連携

運営会議、人事調整協議会、企画委員会の開催等により、県内の医療機関と協議を行い、情報共有することで、地域医療の課題解決に向けて連携強化を図っている。

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

事業開始から7年を経過し、県内の医療関係機関との連携を行う安定した管理体制が構築された。

この結果、地域特別枠医師全員が徳島県内の研修プログラムで初期臨床研修、専門研修を行うとともに、地域医療機関への配置が開始されている。また、平成30年度開始の新専門医制度では、徳島県全体で60名の専攻医が登録されており、若手医師の確保にも繋がっている。

今後、医師不足・偏在等の問題解消に向けての対策についての協議や医師のキャリアを支援するための調整機関・総合相談窓口として、益々その役割が大きくなることが予想される。

## 大学開放実践センター 市民活動リーダー育成事業等

### 事業のポイント

■ 「生涯学習研究院」は、一般社会人を対象にして、自ら地域課題解決に取り組む生涯学習・市民活動のリーダーを育成する。  
■ 徳島県健康増進課と連携した「阿波踊り体操」の普及・啓発等により、県民の健康づくりの機会を提供する。  
■ 知的好奇心を持った未来の科学者養成を目的とする「高校生のための授業・実験講座（T-LECS）」及び地域のニーズに応じた「ドイツ語入門」の公開講座を開講する。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

本学では、これまでも大学開放実践センターや各学部・センター等においてそれぞれの研究成果を生かした特色ある公開講座や講演会等を実施し、地域振興に貢献してきた。

「生涯学習研究院」は、徳島県が抱える様々な地域課題の解決に資するため、一般社会人を対象に専門的な知識・技術などを体系的に学ぶ機会を提供し、地域課題解決に取り組む生涯学習・市民活動のリーダーを養成するための本学独自の学習プログラムを開講している。

また、県民の毎日の健康づくりを応援するため、徳島県健康増進課と連携した徳島県健康づくりサポートツール「阿波踊り体操」の実演・指導等を行うことにより、運動習慣のきっかけづくりや生活習慣病の予防を促し、県民の健康づくりの機会の充実を図っている。

さらに、地域の生涯学習・社会貢献を役割として様々な講座を提供してきた徳島大学公開講座において、今年度は、理工学部や教養教育院の教員の発案、協力で、知的好奇心を持った未来の科学者の養成を目的とする「高校生のための授業・実験講座（T-LECS）」のほか、徳島県がドイツ代表チームの東京五輪キャンプ地となることや「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」遺産登録に向けた動きもあることから、ドイツ語通訳ボランティア等の育成を目指して「ドイツ語入門」の講座を開講した。

#### 2. 事業の取組状況

「生涯学習研究院」は、公開講座と大学の授業等を組み合わせ、2ヶ年をかけて専門領域に関する知識や技術を体系的に学ぶ本学独自の市民活動リーダー養成制度であり、平成25年度から取り組んでいる新機軸の公開講座である。

徳島県の連携講座として「阿波踊り体操リーダー養成講座」を6月10日（日）（当センター）に、「阿波踊り体操マイスター認定講座」を9月17日（月・祝）（徳島市ふれあい健康館）と10月21日（日）（当センター）に開講した。また、「とくしまマラソン2019 走るんじょ! 初心者講座」は、10月21日（日）～3月2日（土）に計8回（鳴門・大塚スポーツパーク）開催した。

公開講座について、高校生講座は「作って動かそう! ロボッ

### 事業代表者・連絡先

吉田 和文（大学開放実践センター・センター長）  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7276 fax: 088-656-7277  
e-mail: kygakusk@tokushima-u.ac.jp

トプログラミング講座」を5月26日（土）～7月21日（日）に計5回、「不思議な物質の化学」を6月16日（土）～7月28日（土）に計4回、「酵素とDNAの実験講座」を5月26日（土）～7月14日（土）に計4回開講した。それぞれ、初回は講座概要などの講義形式であるが、2回目以降は、学部や大学院の学生のサポートを受けながら実験・実習が行われた。ドイツ語入門は、基本的な発音、文法を中心に10月3日（水）～3月13日（水）に計20回開講した。

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

本学独自の資格である「市民活動支援士」の称号を付与された「生涯学習研究院」の修了者の中には、当センターの公開講座で「シニア世代のいきいきライフ講座」（12月8日開講）や「体 & 頭の体操でアンチエイジング!」（10月15日～2月18日に計15回開講）の講師を務めた者や地域の公民館等における講座の指導者として任用されている者もあり、益々活躍の場が広がっている。

「阿波踊り体操講座」や「とくしまマラソン2019 走るんじょ! 初心者講座」を開催したことによって、地域住民の健康づくりに対する意識を高め、個人や団体の運動のきっかけづくりに貢献できた。

高校生講座では、受講生が大学の機器を使用して最先端の実験・実習を行うことで、ものづくりや研究開発分野などの将来を考えられるよい機会となっている。ドイツ語入門もともども受講生から好評を得ており、次年度以降も引き続き開講することを予定している。



## 情報センター

### 事業のポイント

■ 本センターにて培われたICT技術（インターネット・クラウド・セキュリティ等）の知識と経験をもとに、地域の自治体・企業に対して、人材育成やアドバイスなどの支援を行っている。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

当センターのICT技術や情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS:ISO/IEC27001）の経験を活かして、地域社会の人材育成の支援や情報セキュリティ活動に対する支援目的とする。

#### 2. 事業の取組状況

##### ・徳島県警との連携

本年度も引き続き徳島県警察本部サイバー犯罪対策係が運営するネットウォッチャーに、本センターのスタッフと学生がメンバーとして登録した。また、徳島県サイバーテロ対策協議会にも委員として参画し、県警との情報セキュリティ情報を共有することとし、情報交換も行っている。



(写真1) 徳島県ネットウォッチャー認定式

### 事業代表者・連絡先

上田 哲史（情報センター・センター長）  
〒770-8506 徳島市南常三島町2-1  
tel: 088-656-7555  
e-mail: jokikakuk@tokushima-u.ac.jp

#### ・徳島県情報セキュリティアドバイザー

平成29年から情報センター教員らが徳島県の情報セキュリティアドバイザーを委託され、徳島県職員に対する研修や徳島県のセキュリティポリシーや情報システムに対して、当センターの情報セキュリティマネジメントの経験を生かした、意見やアドバイスを行っている。

#### ・小中学生向けプログラミングワークショップ

本年度も2020年に導入されるプログラミング教育に先立ち、夏休みに小・中学生を対象に、プログラミング講座（写真2）を開催し、プログラミングの楽しさを伝えることや、意欲向上に貢献した。またCoderDojo Tokushimaの定期開催を開始した。



(写真2) プログラミングワークショップの様子

#### 3. 今後の展開

今後も引き続き、大学の情報センターが取り組むべきICT技術、情報セキュリティの支援や情報発信のベクトルを、学生の社会貢献や地域就業を中心に展開していきたい。

## 国際センター

### 事業のポイント

■ 地域の国際化支援のため、国際センターが提供している様々な事業について報告する。  
■ 国際センターでは、外国人留学生を軸として地域や日本人学生との連携や協働など様々な形態の活動を提供している。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

国際センターでは地域の国際化と多文化共生を目的とした活動を行っている。徳島大学のグローバル活動の拠点として、徳島大学に所属する外国人留学生、日本人学生、そして地域住民の交流を積極的に進めている。

#### 2. 事業の取組状況

##### ① 地域住民と外国人留学生の交流

国際センターには外国人留学生の日本語学習や日本文化理解を支援するための「地域サポーター」制度がある。外国人留学生の日本語学習のために、国際センターでは日本語研修（集中）コースや全学日本語コース（外国人留学生、研究生、研究者、またその家族を対象）を開講しており、それぞれのクラスからの要請に応じて授業に参加してもらい、会話やスピーチの練習、語彙や活用変換の学習サポート、レポートやプレゼンテーションについてのコメントなどをしてもらっている。この地域サポーター制度は外国人留学生の支援だけでなく、地域の方々が外国人留学生と交流し、留学生の国、言葉や文化を知り、国際交流と相互の国際理解を学ぶ機会となっている。

今年度の国際センター主催のサマープログラムには5か国から39人の大学生の参加があったが、地域サポーターには書道と茶道を担当してもらった。また、徳島大学に在籍する留学生のためにも書道のクラスを担当してもらった。いずれのイベントにおいても、ただ書道や茶道をするだけでなく、地域サポーターと学生たちが交流し、それぞれが互いの文化や考え方を学ぶことのできる時間を設けた。

国際センターが行う国際交流関連のイベントは、外国人留学生だけでなく、地域住民や日本人学生にも必ず参加してもらっている。前期には着物の歴史を学び着付けを体験するイベントを行い、後期にはスタディ・ツアーでうどん学校や金比羅宮に行った。また、サマースクールの合同交流会、多文化体験交流会、国際展開推進シンポジウム、外国人留学生の卒業・修了を祝う会なども開催したが、いずれのものにも地域住民に参加を促し、地域のグローバル推進も支援している。

##### ② 地域学校との連携・支援

国際センターの教員が地域の学校に出向き、徳島大学の

### 事業代表者・連絡先

高石 喜久（国際センター・センター長）  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7491 fax: 088-656-7597  
e-mail: kokukikakuk@tokushima-u.ac.jp

国際化や異文化理解に関する授業を行っている。県内の高校が行っているグループ研究のアドバイスなどもしている。また、県教育委員会からの要請に応じて、現場教員に対する研修会で講演をしたり日本語教育に関する会合にも参加したりしている。加えて、県内小学校からの要請で外国人留学生が小学校に行き、自分たちの国や文化、言葉を紹介する活動も行っている。その際、近隣の日本人家庭にホームビジット受入れをお願いし、外国人留学生との直接の交流が持てるようにしている。

今年度のサマープログラムでは県内高校生が徳島市内を案内する活動を初めて取り入れた。参加希望の高校生20名に対して、事前の学習として適切な英語表現や徳島の歴史を英語で説明する仕方などを、徳島大学教員がワークショップ形式で4回指導した。

#### 3. 成果と今後の展開

学内と地域を結ぶ様々な活動を通して、徳島地域の多文化共生、グローバル化の推進を支援しており、今後も継続する。また、外国人留学生の県内への就職支援を学内の関連部局や地域行政、他大学などと連携して行い、地方都市である徳島に外国人が定着し地域の担い手となるようなサポートを積極的に行っていきたい。



地域住民との着物の歴史学習と着付け体験



地元小学校で小学生と外国人留学生が交流



海外からのサマープログラム参加者と地元高校生の交流

## 環境防災研究センター

### 事業のポイント

- 各種災害に対する被害予測や防災啓発活動。
- 自然環境の保全・修復・再生を目指した研究開発と地域支援。
- 自然災害に対する危機管理手法に関する研究開発と人材育成。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

本センターは防災研究部門、環境研究部門、災害医療研究部門、危機管理研究部門の4つの部門で地域の防災と自然環境保全に関する研究を推進するとともに、地域に密着した活動を通して貢献しています。

#### 2. 事業の取組状況

(1) 講演会などの市民講座やシンポジウムの開催

- ①2018年島根県西部地震災害調査報告会(5月2日、主催)、
- ②2018年大阪府北部地震災害調査速報会(6月27日、主催)、
- ③西日本豪雨災害調査報告会(9月12日、主催)、④徳島県地域継続シンポジウム(11月5日、主催)、⑤とくしま大学防災Café(4月～3月、毎月1回、主催)、⑥第7回防災・危機管理人材養成シンポジウム(3月8日、共催)、⑦第5回勝浦川流域フィールド講座(4月～10月、共催)

(2) 徳島市地震・津波避難支援マップ作成(加茂地区、勝占中部地区)

(3) 防災パンフレットの制作協力

エフエム徳島「2018年度版防災パンフレット」

(4) 防災・危機管理の人材育成

①地域防災力強化人材育成(徳島大学防災リーダー、一般市民対象、県職員対象)

②四国防災・危機管理プログラムによる専門家(災害・危機対応マネージャー)の養成

③企業防災支援活動 徳島県BCP研究部会 隔月1回(徳島大学工業会館)、計6回。

④自治体BCP研修会 鳴門市役所、阿南市役所、美馬市役所、徳島県庁の4ヶ所で開催。

④学校防災研修会への講師派遣 東みよし町。

(5) 自然環境の保全・修復・再生に係る研究開発支援

①「生物多様性ととくしま会議」の運営・活動の支援。

②「スマホ生きもの調査」の実施協力

③みなみから届ける環づくり会議の運営支援。

### 事業代表者・連絡先

中野 晋 (環境防災研究センター・センター長)

〒770-8506 徳島市南常三島2-1 (徳島大学環境防災研究センター)

tel: 088-656-8965 fax: 088-656-8017

e-mail: nakano.susumu@tokushima-u.ac.jp

(6) 自然災害調査

①2018年島根県西部地震(大田市)

②2018年大阪府北部地震(茨木市、高槻市)

③2018年7月豪雨調査(愛媛県、岡山県、広島県)

④2018年台風第20号、第21号、第24号災害調査

⑤2018年北海道胆振東部地震(札幌市、厚真町)

(7) 社会福祉施設・医療機関等の防災対策支援

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

全国各地での災害調査や自然環境の保全・修復等に関する研究・開発成果を活かし、防災と環境保全に関する市民啓発や人材育成事業を活発に実施した。

徳島県や香川大学と連携して取り組んでいる徳島大学防災リーダーと災害・危機対応マネージャーの養成もこれまで通り進めている。



とくしま大学防災Caféの様子

## 地域創生センター | こまつしまリビングラボ(KLL)

### 事業のポイント

- 本学が提案した企画「こまつしまリビングラボ(KLL)」が、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)科学技術コミュニケーション推進事業 未来共創イノベーション活動支援に採択され、平成30年4月から実施している。

### 事業の概要

#### 1. 背景

地方創生が叫ばれる中、少子高齢化と若者流出による人口減少に歯止めがかかっていない。気候変動、大地震・津波等、大災害への備え・対処がますます大きな課題となっている。また、そもそも地方の良き風土、伝統や文化を感じながら、のびのびと安心して子育てできる社会はなかなか実現しない。そのような社会では一人一人が、能力を活かし健康でイキイキと働ける、そんな幸福感を手繰り寄せることは容易ではない。

こうした「地域社会の根本的問題」あるいは、従来のやり方や単独の取組では歯が立たない社会全体の問題に効果があり、持続・成長する地方を取り戻す可能性を秘めたイノベーションプラットフォームとして今「リビングラボ」が目目されている。

欧州ではすでに440を超えるリビングラボが活動を始めているが、日本では始まったばかり。この先端のまちづくり手法をいち早く取り入れ、四国で初めての試みとして平成30年4月から始まったのが、「こまつしまリビングラボ(KLL)」プロジェクト。本学(地域創生センター)が小松島市、JA東とくしまと連携して国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「科学技術コミュニケーション推進事業 未来共創イノベーション活動支援」に提案し、32倍の難関を突破して採択された。

#### 2. リビングラボの特色

リビングラボのポイントは以下の5つ。

- ①開かれた「場」をつくり、産官学民の新しい枠組みで多様な人たちが集まる(つながりと共感による地域創生)。
- ②地域課題の本質を市民の目線で解きほぐし、本当に必要なことは何かを見つけ出す(問題発見と新しい価値の創造)。
- ③持続・成長する社会像を描き、そこに到るプロセスを共有する(デザインと物語づくり)。それを、④形にして見えるようにする(共創とプロトタイプング)。
- ⑤最新の科学研究、テクノロジーの応用を含め、社会の中で試してみる(社会実装と評価)。

### 事業代表者・連絡先

吉田 敦也 (地域創生センター・センター長)

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880

e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

#### 3. こまつしまリビングラボ(KLL)

KLLがスタートして1年。この間に、有志の力でぼんぼこ大学院(正式名称:社会イノベーション&共創大学院)という、リビングラボの実践的勉強会を立ちあげた。楽しくイキイキとした学びの場となり、そこから新しい地域づくりチャレンジャーが輩出され、ビジネスリーダーが誕生した。

11月に行った「社会共創キャンプ」(詳細はタウンミーティングを参照P7)では、市民、地域の事業者、高校生、東京に本社を置く大企業や自治体職員等、地域内外からの参加者が知恵を出し合い、地域の資源や現状を様々な視点から見直し、未来をデザインし形にした。このキャンプから、小松島の農業と移住、港や観光コンテンツの活性化、中心市街地問題、水をテーマにした、循環型社会形成等にインパクトを与えるビジネスプランが芽を出し、動き出した。今後さらに具体化され、共有されるものと考えられる。2年目はチャレンジャーをさらに広く募集し、より多様な参加者による共創を実践していき、3年目には、行政とともにこれらの活動を発展させる政策形成に取り組む予定。



KLLを詳しく知りたい方はホームページをご覧ください  
(<https://kll.itlab.org/>)

## 地域創生センター | 地域連携・社会貢献の取組

### 事業のポイント

■ 地域連携による課題解決、ビジネス創出支援、地域再生人材育成、実践モデル教育・研究、拠点形成、地域活性化イノベーション・プラットフォームの構築に取り組む。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

地域創生センターは地域連携・社会貢献推進のためのコミュニティデザイン部門、地域協働デザイン部門、公共システムデザイン部門の3部門構成で活動しており、地域課題解決プロジェクト、地域人材育成プロジェクト、徳島大学フューチャーセンター研究事業、各種相談受付等の活動を行っている。

#### 2. 事業の取組状況

##### ①徳島ロボットプログラミングクラブ

開催日：ロボットコース

8月19日(日)、9月2日(日)、9月16日(日)、  
10月14日(日)、10月28日(日)  
ロボカップジュニアコース  
11月18日(日)、12月2日(日)、12月16日(日)、  
12月23日(日)、12月24日(月)、1月5日(土)、  
1月6日(日)、1月12日(土)、1月19日(土)、  
1月26日(土)

場所： 徳島大学フューチャーセンターA.BA

ロボットやプログラムの製作を通して、メカトロニクス・ICT技術の興味・関心を深め、未来を担う人材育成を目的とし、地域の小学3年生～中学生を対象にロボットコースを計5回、小学5年～中学生を対象にロボカップジュニアコースを計10回開催した。ロボカップジュニアコースでは、1組2名の受講生が徳島ノード大会を勝ち進み、四国ブロック大会に出場した。



### 事業代表者・連絡先

吉田 敦也 (地域創生センター・センター長)

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880

e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

##### ②親子工作体験教室 (3Dプリンターでマイミニ四駆をつくらう!)

開催日： 8月26日(日)

場所： 徳島大学フューチャーセンターA.BA

市民参加型のものづくり促進拠点を旨とし、3Dプリンターを用いたものづくり教室として、小・中学生とその保護者を対象に地域における先端技術の担い手の育成を目的に開催した。



##### ③「伝統をメイク」プロジェクト「創作人形浄瑠璃から学ぶ表現の面白さ」

開催日： 6月27日(水)

場所： 徳島大学けやき小ホール

平成28年から始まった、徳島の伝統文化「阿波人形浄瑠璃」の保存と継承、そして新しい価値の創造に取り組む「伝統をメイク」プロジェクト。

平成29年度には、浄瑠璃人形を自分たちで作って演じる活動団体「A.BA座」が誕生した。

平成30年度は、人形を通じて演じる魅力をより多くの人に伝えるため、人形遣いの勘緑氏、作詞家・作家の高橋久美子氏、作曲家の平本正宏氏を講師に呼び、教養教育院授業「異文化交流から学ぶグローバル化」、「日本事業Ⅲ」の学生らが表現の魅力を学んだ。平成30年6月27日に開催した上演会では、その学生らが新たな表現作品に挑戦し、その成果を発表し、表現の魅力を伝えた。

##### ④徳大ファーマーズマーケット

開催日： 6月16日(土)、9月22日(土)、12月15日(土)、  
1月12日(土)

場所： 徳島大学常三島キャンパス助任の丘

全米一住みやすい街オレゴン州ポートランドの市民活動をモデルに、地域の持続と成長に貢献する「場」づくり、農林水産／6次化／食産業のイノベーション、ならびに大学生に対する食育推進を目的とした「徳島ファーマーズマーケット」を昨年度に引き続き計4回開催した。地域の生産者、飲食店による出店のほか、学生のローカルビジネス実験や他授業での成果発表・体験ワークショップの場としても活用されており、地域と大学を繋ぐ場として重要な役割を担いつつある。



##### ⑤コミュニティデザイン部門

自然の力や恵みを活用した活力のある地域創生を研究／実践することを目的に、以下の活動を行った。

- ・こまつしまりビンラボ共創と6次化支援のためのコンテクストウエアの開発
- ・賑わいメータの開発
- ・徳島ロボットプログラミングクラブ

・社会イノベーション促進に向けたグローバル人材育成プログラム「ファブラボin徳島」

・ポートランドモデルによるまちづくり、ボランティア活動へのICT応用に関する調査と実践

・地域高齢者モバイルインターネット活用支援(いきいきとくったー)

・視覚障害者の空間行動支援システムの開発

・地盤変状モニタリング装置の開発

##### ⑥地域協働デザイン部門

地域の再生、活性化を目指すまちづくりのための人づくり・仕組みづくりを支援することを理念に以下の活動を行った。

・集落景観保全プロジェクト

・那賀町地域再生塾活性化プロジェクト

・辻の町並みを活用した地域活性化事業

・徳島大学・美波町地域づくりセンターの運営

・空き家を活用した地域おこしプロジェクト

・公民連携エキスパートカレッジ

##### ⑦公共システムデザイン部門

新しい公共システムを提案し実践することを通じて、地域経済の発展に寄与することを目的に、以下の活動を行った。

・古地図の高精細画像を用いた地域学習コンテンツの作成

・地域の魅力創出と景観保全のための建物データベース構築

・徳島の魅力創出と情報発信による観光まちづくり

・持続可能な地域社会づくりを目指したグローバル教育プログラム作成

## 研究支援・産官学連携センター

### 事業のポイント

- 阿波銀行、徳島県信用保証協会との連携協力による地元中小企業の課題解決型産学連携活動
- 徳島大学産業院による新たな地域産業の創出を目的とした産官学連携活動
- 将来を担う地元企業の中核人材を対象とした地域産業人材育成事業

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

研究支援・産官学連携センターでは、産業界との連携を図るため、企業からの技術相談等への対応、徳島大学の研究者及び研究シーズの企業への紹介、大学の知的財産の保護と活用、企業との共同研究等の支援、大学発ベンチャー支援、地域産業人材育成講座の開講など幅広い活動を行っている。

#### 2. 事業の取組状況

本報告書では、研究支援・産官学連携センターの活動のうち、地域連携に係る特筆すべき活動を報告する。

●徳島大学と阿波銀行（本店：徳島市）は、平成25年2月25日に連携協力に関する協定を締結しており、その目的は「双方が保有する研究・技術・情報・ノウハウを活用し地域での産学連携を推進し、地域の発展と産業の振興に寄与する」である。本協定に基づき阿波銀行の主要取引先企業である地元中小企業を中心に、企業が抱える課題を大学と協力し解決し、さらに新たなビジネスにつなげる課題解決型産学連携活動を実施している。

●徳島大学と徳島県信用保証協会は、平成29年11月13日「技術移転等産学連携推進のための協力に関する覚書」を締結した。この覚書は平成28年5月に両者が締結した「連携協力に関する協定」に基づく取組をさらに発展させたものであり、双方が保有する研究技術、企業情報や経営支援ノウハウ等の活用により、技術移転等によるイノベーションの更なる促進を図り、県内企業の「稼ぐ力」を向上させることを目的として活動している。

●徳島大学では平成30年4月新たに大学産業院を設立した。この組織は大学の研究成果を社会に実装化することによる新たな地域産業の創出を目的とする。その組織モデルは大学院であり、大学院においては教育、研究そして臨床活動が連携して為され、社会貢献と共に収益をも上げ

## 産官学連携推進事業

### 事業代表者・連絡先

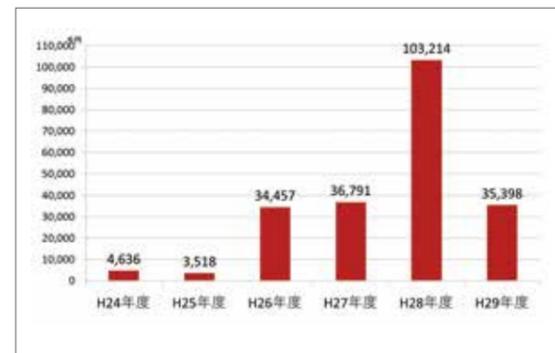
吉田 和文（研究支援・産官学連携センター・センター長）  
〒770-8506 徳島市南常三島2-1  
tel: 088-656-7592 fax: 088-656-7593  
e-mail: rac-info@tokushima-u.ac.jp

ている。これに対応して医療分野に限定することなく、大学が持つ知見を広く社会への実装を通じ、大学全体としての更なる社会への貢献をはかる組織が大学産業院である。その活動を通じて新たな研究、教育のあり方、新規産業創出モデルを徳島大学から発信し、成果の事業化、産業化を通じ世界の課題を地域から解決することを目指して活動している。



(徳島大学産業院キックオフシンポジウム)

●平成29年度の知的財産のライセンス収入は3,598万円であり平成25年度以前と比べ、高い水準にある。



(図1) 特許権等実施料収入の推移  
[注: 実用新案権、意匠権、商標権著作権等を含む]

●「徳島大学 地域産業人材育成講座」は開講14年目を迎え、今年も次代を担う地元企業の中核技術者を対象に以下6つの講座を開講した。

講座名	時間数	受講者数
生産管理講座	24H(6H×3回、3H×2回)	26名
3DCAD講座	24H(3H×7回)	15名
ロボット講座	24H(3H×8回)	7名
AI(人工知能)入門講座	24H(3H×8回)	18名
マーケティング講座	21H(3H×7回)	9名
次世代リーダー育成講座	18H(6H×3回)	16名
インターンシップ	9H(3H×3回)	12名

●地域の企業関係者を主対象とした企業経営に関する話題を提供するイノベーションクラブ講演会を2回開催した。

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

●徳島大学と阿波銀行の共同による産学連携・技術移転活動を行うとともに、知的財産の経済価値を高め、技術移転の経済的規模を拡大するためのより高度な知的財産の評価・実証活動（Proof Of Concept等）を実施する。

●Proof Of Concept等を実施した結果、徳島大学が有する知財を活用する大学発ベンチャーの設立支援を行うとともに、外部機関への紹介、宣伝等、広報活動支援等の育成支援を行う。

●徳島大学産業院では企業との共同研究にて実績のある学内研究者に対して専属コーディネーターを配した伴走支援体制をとり、共同研究の円滑な進展及び速やかな社会実装化を目指して活動している。

さらに「組織」対「組織」の連携活動を推進するため新規事業の企画立案も行っている。くわえて、今後社会にて必要とされる、より実践的な知識の習得を主眼とした起業家精神の涵養、ものづくり、そして起業・新規事業開発、経営などのアントレプレナーシップに関する科目を外部からの経営者、識者を講師として招き大学講義として開講することを今後の展開目標としている。

●地域産業人材育成講座は、平成17年の開講以来、講座の内容について毎年検討を加えながら開講している。これまで累計1074名の企業人が受講し、各企業において中核人材として活動している。

- ・平成30年度は、今やブームとなっているAIを活用できる基礎的技術を実習するAI入門講座を新規開設した。
- ・またマーケティング講座・次世代リーダー育成講座についてもより実践的なものに改編した。
- ・3D-CAD講座・ロボット講座を含め、実習中心の講座になってきた。
- ・インターンシップは異業種の先端例を学習するため県内の西精工株式会社、四国化工機株式会社、兵庫県のパナソニックエコテクノロジーセンターにて実施した。



地域産業人材育成講座



徳島大学産官学連携プラザ

## 先端酵素学研究所 糖尿病対策事業

### 事業のポイント

- 徳島県の最大の健康課題である糖尿病の克服を目指し、行政、医師会、国保連合会など総力を挙げて、重症化予防や治療中断阻止に向けた対策に当たる。
- 徳島県での糖尿病診療の質の向上及び効率化を実現するために、先進的医療連携システム基盤「阿波あいネット」を構築し、そこで展開できる医療技術を開発する。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

徳島県最大の健康課題である糖尿病を克服するために、行政、医師会、国保連合会などと連携して対策を推進する。さらに、県下全域で、均質な高いレベルの糖尿病診療が実現できるよう、効率的な医療連携基盤「阿波あいネット」を構築し、そこで展開できる技術を開発する。

#### 2. 事業の取組状況

##### (1) 重症化予防糖尿病対策

徳島県医師会糖尿病対策班を中心に、糖尿病対策を推進する。特に平成30年度は、糖尿病腎症重症化予防のため、県内市町村と関連団体による成果発表会を行い、医師会と保険者との顔の見える関係を推進し、糖尿病腎症重症化予防対策の成功事例を横展開する支援を行う。

##### (2) 徳島糖尿病克服ネットワーク

Information Communication Technology (ICT) を用いた医療連携基盤として、糖尿病を中心に「徳島糖尿病克服ネットワーク (ToDo-Net)」を推進してきたが、疾患特性を排除し、より汎用性の高い全県単位の Electronic Health Record: (EHR) 「阿波あいネット」として運営開始する。この活用を促すため、シンポジウムを開催し、活用技術の研究開発を行う。

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

##### (1) 重症化予防糖尿病対策

徳島県医師会と協働し、24市町村と3関連団体、4病院が参加して「徳島県糖尿病腎症重症化予防対策フォーラム」(写真1)を開催した。各地域の対策事業を共有し、成功事例の県内横展開を目指す契機となった。

### 事業代表者・連絡先

松久 宗英 (先端酵素学研究所糖尿病臨床・研究開発センター・センター長)  
〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15  
tel: 088-633-7587 fax: 088-633-7589  
e-mail: matuhisa@tokushima-u.ac.jp



(写真1)平成30年10月21日、徳島大学大塚講堂

##### (2) 徳島糖尿病克服ネットワーク

ToDO-Netとして、20医療機関、約1,200名の糖尿病患者が参加されてきたが、徳島県全域ネットワーク「阿波あいネット」として展開し、100医療機関、約27,000症例の参加登録へ大きく発展した。

阿波あいネットシンポジウム2018(平成30年10月14日、徳島大学藤井節郎記念ホール)を開催し、68名の参加を得て、国内の先駆的なICT医療連携成功例であるうすき石仏ネットワークでの救急医療への活用から疾病管理手帳や母子手帳への応用について情報交換を行った。また岡山の晴れやかネットワークが県を超えて広島県との連携へ拡大する事例を紹介いただき、広域化の課題と期待について意見交換を行った。

今後の阿波あいネットで展開可能な技術として、糖尿病合併症リスク診断プログラム、EHRを患者に届ける Personal Health Record (PHR) 「電子糖尿病ダイアリー」、さらに遠隔医療の研究開発を行った。

## 附属図書館 県内図書館との連携による読書推進活動事業

### 事業のポイント

- 鳴門教育大学附属図書館及び徳島県立図書館との連携協力により、徳島県における学術、文化及び教育の振興に資する。
- 徳島市立図書館との連携協力により、地域貢献を果たす。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

附属図書館では広く一般に公開し、地域の文化振興に寄与している。また、徳島県立図書館や徳島市立図書館、鳴門教育大学附属図書館との連携により、講演会等の学術的・文化的な行事を開催し、大学と地域を結ぶ「交流の場」としての活動も行っている。

#### 2. 事業の取組状況

##### (1) 講演会等の開催

①学術講演会「吉野川洪水と明治以降の治水及びローテク防災術」の開催

第28回学術講演会「吉野川洪水と明治以降の治水及びローテク防災術(写真1)」を鳴門教育大学附属図書館、徳島県立図書館、徳島市立図書館と共催で実施し、県内外から50名を超える市民等の参加があった。講演では、吉野川の洪水の歴史や明治以降の治水対策に加え、現在の水害の実態、大災害への心構えや防災テクニックについて解説を行った。また、講演会に合わせて開催した徳島大学附属図書館企画展示では、講師から提供いただいたローテク防災術に関する資料を展示し、938名の見学者が訪れた。



(写真1)学術講演会の様子

### 事業代表者・連絡先

吉本 勝彦 (附属図書館長)  
〒770-8507 徳島市南常三島町2-1  
tel: 088-656-7584 fax: 088-656-7587  
e-mail: tssoumuk@tokushima-u.ac.jp

#### ②「図書館で健康いきいき講座」の開催

徳島大学医療系の専門教員を講師に、市民と双方向に対話しながら学ぶことができる医療講座として、「歯周病予防から全身の健康へ～健康に役立つポイント、お伝えします～(写真2)」を徳島市立図書館と徳島大学附属図書館により共催した。



(写真2)図書館で健康いきいき講座の様子

##### (2) 一般利用

毎年約2,000名(延べ約27,800名)の一般の方が徳島大学附属図書館を利用されており、専門図書や教養図書等の貸出は約9,000冊に上る。地方における中核的な資料提供機関として、生涯学習の支援に取り組んでいる。また、地域の古地図等の貴重資料をデジタル化して図書館ホームページで公開し、地域社会の文化振興を支援している。

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

様々な現場において今後さらに専門的知識が必要とされることや、人生100年時代に向けた生涯学習に対応するため、館種を超えた図書館の連携によって、地域における図書館活動を進めていく予定である。